



至誠・致知・鍛錬

北杜市立高根中学校
学校だより
発行 校長 中村 忍
令和2年度 第15号
3月25日発行(最終号)

「心の扉を開く鍵(こころのとびらをひらくかぎ)心を通じ合う鍵は、自分自身が温かい心でいながら、自分に素直であり続けること」穏やかな心で、幸せを共感し、喜びを分かち合いながら、周りのみんなに温かさを広げられる人になりたい



「公立高校後期入試」

3/3(水)、4(木)に、公立高校後期入試が実施されました。28名の3年生が受験に挑みました。コロナに、インフルエンザに、怪我にと、体調に気を付けながら本番を迎えました。3年間がんばってきたことを力いっぱい発揮してくれたことと思います。高校では、部活動、生徒会活動、各種検定、そして、未来に向けての学習に励んでもらいたいと思います。元気に、楽しく、充実した高校生活になることを期待しています。高根中を巣立った生徒が、後輩の憧れの存在として活躍する姿をたくさん見たいと思います。



～ 全ては自分の心次第 ～
「自分自身がどうありたいのかを描き努力すれば、何者にでもなれる」

「高根中学校卒業証書授与式」

3/11(木)に、小澤 建二 教育長職務代理者様をはじめ、ご来賓と保護者の皆様にご出席いただき、「令和2年度 北杜市立高根中学校卒業証書授与式」を挙行了しました。コロナ禍の大変な一年間でしたが、ここまで頑張ってきた卒業生の巣立つ姿を最大限応援できる舞台として、みんなの心を一つにして送り出すことができたと思います。卒業生のみなさんには、以下の話をさせていただきました。



- 変わってしまった日々の中で、駄目かもしれないと思ったことも数々あったと思うけれど、仲間と手を取り合って必死に乗り切ってきたことは、必ず次に繋がること。
- 人生で最初の大きな「節目」の日を迎えるにあたって、たくさんの方々の温かい眼差しや声かけがあったことに感謝し、言葉に心を添えて「ありがとう」の気持ちを伝えること。
- その恩に報いるために、地域・社会を支える立派な大人となること。
- 困難な今を前向きな気持ちに切り換えて、次に大きな飛躍を遂げるためのエネルギーとして蓄え、まわりの人と支え合い、勇気をもって乗り越えていくこと。
- 仲間との出会いが喜びの輪となるように、人との縁を大切にできる人となること。
- まわりの声に耳を傾け、心の繋がりを大切にして、微笑みの種をたくさん蒔き続けること。
- この高根中学校は、みなさんの「母校」なので、困ったとき、苦しいとき、辛いとき、悲しいときは、いつでも帰ってきて、心のエネルギーを充電して再スタートを切る場所にすること。



教職員とワチームとなって、本校を支えていただいた卒業生の保護者の皆様、本当にありがとうございました。そして、本当におめでとうございます。



～ 卒業生のみなさんの前途に、幸多からんことを ～

表彰等

三ヶ年皆勤

- | | | | |
|---------------|---------|-------------|--------|
| 3年植松 莉央 | 3年小松 桃羽 | 3年笹島さくら | 3年谷 虹輝 |
| 3年大芝 翔大 | 3年小野 哲太 | 3年坂本 晴 | 3年原 千里 |
| 3年原藤 柚希 | | | |
| 山梨県テニス協会会長賞 | 3年太田 理斗 | 3年清水智菜津 | |
| 山梨県バスケット1年生大会 | 県ベスト8 | 高根中女子バスケット部 | |

「修了式」

3/25(木)の本日、修了式を行いました。高根中1、2年生が活躍したこと(吹奏楽、テニス、スキー、科学工作、理科自由研究、スポーツ絵画コンクール、音楽創作くらべ等)、心に思いを集積して人間性を高めること(以下)について話をしました。

1月28日に日本中が湧いた。それは、ニューヨークヤンキースをフリーエージェントとなっていた田中将大投手の楽天復帰のニュースである。「現役バリバリのメジャーリーガー」が日本のマウンドに立つこととなった。しかし、アメリカメジャーリーグからの誘いをかけて、なぜ、日本プロ野球楽天に復帰なのか。そこには、お金ではない「人間 田中」としての集積してきた思いがあった。

それは、この3/11で東日本大震災から10年の節目を迎えたが、復興がまだまだ続く被災者の近くで励ましたいという思いであった。そして、自分を育ててくれた楽天イーグルスを、8年前と同じ日本一にして、もう一度、東北に勇気をあたえることであった。

日本を離れ、ニューヨークヤンキースで活躍している時も、東北の被災地に思いを寄せ、激励し続けていた田中投手が、もう一度、被災地に感動を与え、元気を取り戻すために始動する。

4/6(火)には、高根中学校の新たなスタートが始まります。友人として、先輩として、心に思いをもって、まわりに感動を与える、勇気を与える行動を起こし、人間性を高めていってほしいと思います。



「離任式」

先日は3年生と、そして今日は、9名の先生方とお別れをしなければなりません。また一つ、高根中の宝物を失ってしまうことが非常に残念です。

〔離任される先生方〕

- | | |
|-------------------------|------------------|
| ○武持 貴英志 先生 (武川中学校 校長) | ○雨宮 恵先生 (穂坂小学校) |
| ○清水 正美 先生 (葦崎東中学校 主幹教諭) | ○植松 浩子先生 (葦崎北東小) |
| ○新海 直美 先生 (明野中学校) | ○秋山 治雄先生 (退職) |
| ○八巻 末船 先生 (産休・育休) | ○谷戸 貴広先生 (須玉中学校) |
| ○保坂 恵 先生 (甲陵中学校) | |



「新たな年度を迎えるにあたって」

～ 信頼が連鎖するバトンを繋ぐ ～

校庭に目をやると、タグラクビーをする生徒の大きな歓声が響き渡っていた。ふと、学校とはいったいどんな魅力があるところなのだろうと頭をよぎった。歓声に耳を傾けながら、いくつか考えが浮かんだ。その中で、たぶん、「与えられた一つの空間の中で多くの子どもたちが協力し、有形無形の様々なものをつくり出すところ」ではないかという思いに至った。

歴史と伝統のある高根中に勤務して、自然と本校に魅力を感じるようになっていた。生徒が校庭でイキキ活動する姿を見て、せっかく高根中に勤務するのなら、一番の学校にしたいという衝動に駆られた。北杜では一番大きい中学校だが、県下では小規模の中学校の方に入ってしまう。生徒数では、大規模校に太刀打ちできない。どうすればよいのか。

それには、教師の天職として捉える心「これでいいのか」「もっといい方法があるのではないかと」というスキルの高さの追求と使命感を涵養することが重要だと思った。中身・内容の濃さ、豊かな創造力、活気のあるエネルギー、そして高根中のプライドで勝負したい。

だが、教師がこの行動を起こすだけでは、子どもたちが実際にイキキ動くとは思えない。足りないと思った。一番大切にしなければならないことは何か。それは「謙虚な姿勢と周囲に感謝する心」で、人と人との信頼関係を構築することだと思う。信頼により、子どもたちと心が通じ合った時、まとまった大きな力となり、その教師力についていく。教師が信頼されるような言動をしているか、まずは原点に立ち返ることが必要だと思う。

今なお収束が見えないコロナ禍の中だからこそ、「集う力を信じて」そこから生まれてくる大きな力で、高根中の未来を創造し、さすがに高根中にはかなわないと言われる信頼の厚い学校をつくり、信頼が連鎖する学校としてバトンを繋いでいきたい。



「チーム高根中」

教職員29名 生徒201名 保護者189名が

「チーム高根中」として取り組んでいます。

学校住所：〒408-0019 北杜市高根町村山東割98

電話：0551-47-2026 FAX：0551-47-2075

新ホームページ <http://takanejhs.main.jp> もご覧ください。